



環境林センターの閉鎖

95年から、幾度か拡張しながら GEN の緑化協力の拠点として重要な役割を果たしてきた環境林センターですが、開発の波には逆らえませんでした。センター近くの炭鉱住宅が大幅に増築され、住人の憩いの場として植物園がつくられることになり、その敷地として接収されることになったのです。補償がえられるかどうかも危ぶまれたのですが、大同事務所が奔走して、白登苗圃・かけはしの森の近くに 20ha あまりの代替地を確保できました。

大同市政府は、環境林センターを中心に、その両側の苗圃、園林処を加え、総面積 67ha の「口泉植物園」を建設しました。5年間で 1.6 億元の資金を投じ、市民に公開された立派な施設になっており、環境林センターで育てていた苗木も大きく成長しています。